

分科会研修のまとめ

A分科会 学校簿記入門

運営委員 齋藤 淳志
景山 峰司
中塚 真由美

A分科会では、学校簿記の経験が少ない31名の参加者を対象に、日常行う会計処理について、学校法人会計基準に基づく解説を加えながら、実務研修を実施しました。

教材は、資料A-1「学校簿記入門」、A-2「演習問題」、A-3「演習問題（解答）」を中心に、パワーポイント資料や各種計算書様式が掲載された副資料もあわせて使用しました。

進行としては、まず、学校簿記のイメージをつかんでいただくために、学校法人会計基準の概要を含め学校簿記の全体像を説明しました。参加者の中には、日常経理業務に携わっていない方も多かったため、借方（かりかた）、貸方（かしかた）といった仕訳のルールや、簿記の基礎から理解してもらえるよう説明しました。

次に、最も身近な業務となる資金収支計算に係る収入科目、支出科目をひとつずつ説明し、実際に演習問題に取り組むことにより日常の会計処理に慣れ、理解を深めてもらいました。その後、「資金収支計算書」及び「活動区分資金収支計算書」を作成しました。

続いて、事業活動収支計算については、資金収支計算との違いや事業活動収支計算特有の仕訳について説明し、演習を行いながら「事業活動収支計算書」と「貸借対照表」を作成しました。

最後に、これら計算書の特徴や見方について説明しました。

いずれにおいても、実務経験が少ない方にも分かりやすいように、丁寧な説明を心がけました。各校の経理の現場では、会計処理はシステム化されており、仕訳伝票の入力により同時に帳簿が作成されることがほとんどだと思いますが、A分科会では、元帳や試算表への転記なども一部を手作業で体験してもらうことで、その過程を理解する機会を提供しました。参加者の日常の担当業務や基礎的な習熟度にもよりますが、全体として、学校簿記のイメージについては、理解してもらえたのではないかと思います。

課題としては、A分科会で扱う範囲が広く、演習問題も多数用意していたことから、途中やや駆け足での説明になってしまった部分もあったため、今後はポイントを明確にしたメリハリのある進行ができるよう改善していきたいと思います。

なお、参加者同士の親睦を深めるため、初日に自己紹介を行い、名刺交換を促したことによって、休憩時間においても名刺交換や情報交換が行われ、3日間をとおして積極的に交流されている様子が伺えました。知識の習得のみならず、参加者にとっては大きな成果になったのではないかと思います。